

2016 年度立命館大学校友会 東日本大震災復興支援事業
— 東北応援ツアーレポート —

参加者指名：長谷川伸

卒業年：2001 年 卒業学部：文学部



「現地を訪問して想うこと」

「百聞は一見に如かず」

以前震災ツアーで宮城県を訪ねた時もそう思った。

「被災地のことを覚えていてほしい。思い出してほしい。また訪ねて来てほしい」

当時も今回も心に残った言葉は同じである。私は宮城県を訪ねた時から、ふとした時に被災地のことを思うことがある。それは、新聞を読んでいる時であったり、買い物のときであったり、車を運転しているときであったりと様々だが、自分の潜在意識に被災地のこと、刻まれているようだ。それは、きっと阪神淡路大震災と東北大震災が自分の中で繋がっているからだと思う。毎年1月17日に三宮東遊園地の震災祈念行事に参加している。今年も、東北からもたくさんの方が参加されていた。そのようなこともあって、私の中では繋がりの気持ちが増しているのかもしれない。大切にしていきたい。



さて、今回の東北応援ツアーで一番印象的だったのは、三陸鉄道南リアス線の「震災学習列車」である。クウェートから多大な支援を頂いたこと、トンネルの中で車両が緊急停車したこと、津波の二度逃げ、過去の教訓（先祖の教え）を守り被害が少なかった集落、復興に向けて地域住民に起こる葛藤、漁業問題、若者の流出など、現地の声を聞くことで初めて理解できたことがたくさんある。

改めて思う。「百聞は一見に如かず」自分の足を運ぶことの大切さを感じた。

これからも私ができる支援とは…。被災地に想いを馳せ、訪ねることではないだろうか。